



今月のテーマ

FPに相談するということ…!? Part.5 「リスクと保険設計」(損保編)

私たちの日常にはさまざまなリスク（危険）が潜んでいる。その様子は実に様々であるが、皆さんは身近に存在するリスクを考えたことがあるだろうか…。まずはリスクそのものの位置づけと、理解をすることから始めよう。理解できた上で、どのように向き合い、どう備えるかを考えねばならない。ありえないことが起こったとか、予期できないことが発生してしまったと言われることがあるが、その予測は100%までとはいからず多くの部分は想定することが可能だ。

リスクには、「顕在化」（見えている）しているものと「潜在化」（潜んでいる）しているものとに分けられる。前者の顕在化しているリスクの代表的なものとして自動車事故があるが、運転中に起こりえる事故の可能性と被害の甚大さは比較的分かりやすい。だから多くの人は自動車保険に加入し、賠償と事故による損失に備えるわけだが、この保険にさえ加入していない人も居る。以前、他人の車にぶつけた無保険のお母さんから「保険に入っていなくても賠償しなければいけないんですか?」と言われたことがあるが、これではリスク管理どころか常識の欠如と言うしかない。

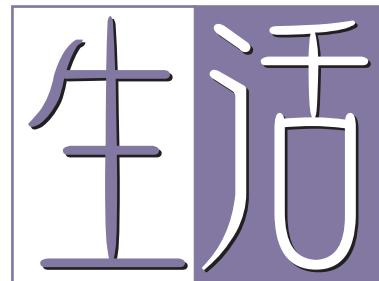
さて、この顕在化したリスクとは逆に、側に潜んでいたりも想定しにくいのが潜在化しているリスクだ。これらのリスクの多くは、発生の頻度も少なくその損害の大きさも想定しにくいから厄介だ。三陸地方を襲ったあの東日本大震災では多くの命と、おびただしい数の家や車が流失してしまった。ところが、地震保険の加入率をみてみると、宮城県と比較すると岩手県では大きく下回っていたことも見えてきた。阪神淡路大震災では、地震後に発生した倒壊よりも、その後に発生した火災により焼失被害は甚大なものとなった。多くの人は、当然に火災保険で支払って貰えるものだと思っていたが、地震保険でなければ対象とならず、火災保険では支払えないことに愕然とする結果になってしまった。何ともいたしがたい事実を突きつけられ、地団太を踏む想いではあるが“後悔先に立たず”だ。福島の原発事故もそうだが、絶対的な安全は存在しないと言わなければならない。であれば、リスクは存在するし、事故は起きるという前提に立たなければならない。

回避できるもの、軽減できるもの、移転できるものであれば、その対策を行なわなければならない。そして、どうしても避けられない経済的な損失に関しては、保険を利用することになる。保険は加入自体が目的ではないはずだし、リスクを見据えた延長線上になければならないのだが、内容が良く理解されないまま、いつの間にか“保険ありき”になっているような気がしてならない。

ファイナンシャルプランナーに相談するということは、リスクの回避等を前提とした、総合的なマネジメントを受けるものである。



SEIKATSU CHIEBUKURO



生活にナニカト役立つ連載コラム
「つぶやき」「がんちゃん」の
知恵袋

VOL-47

一生懸命
つぶやきます



■プロフィール
さいとう ひろかつ
齋藤廣勝

株式会社
トータルライフサポート代表取締役

ファイナンシャル プランナー
つぶやきがんちゃん



- CFP®サーティファイドファイナンシャルプランナー
- 1級ファイナンシャルプランニング技能士
- 日本商工会議所 年金退職金等認定講師
- 住宅ローンアドバイザー

リスクを知る

ここでは、主に個人に存在するリスクに絞って考えてみることにしよう。リスクを分類し、整理することにより、それまでに見えていなかつた、気づいていなかつたりスクと潜在するリスクを可視化することで、その対策につなげていただきたい。

リスクの分類

リスクを分類するには様々な方法があるが、ここでは個人の周りに存在する事故の具体的な様子を元に分類してみたい。

分類することで、それぞれのリスクが見えてくる。事故が起こつてから、「こんなはずではなかつた……」にならないためにも左の表1を元にチェックしていただきたい。

【表1.個人の周りに存在する事故の具体的な態様】	
自動車のリスク	・他人にケガをさせてしまった。 ・他の車にぶつけてしまった。 ・ケガをしてしまった。 ・自分の車が壊れてしまった。
住まいと家財等のリスク	・家の燃えてしまった。 ・大雪で屋根が壊れてしまった。 ・地震で家が壊れてしまった。 ・落雷により家の電化製品の殆どが壊れてしまった。
賠償のリスク	・自転車で他人にぶつかり、ケガをさせてしまった。 ・ペットが他人に噛みついてケガをさせた。 ・買い物の際に、商品を落として壊してしまった。 ・キャッチボールをして隣の家のガラスを割ってしまった。
ケガのリスク	・ケガにより入院・通院・手術の費用負担が発生した。 ・治療は終了したが後遺障害が残った。
収入減のリスク	・病気・けがのため休業し、収入が減少してしまった。

事故の強度と頻度

それぞれのリスクにおける事故には、頻繁に発生するものと、滅多に発生しないものがある。

頻度の高い事故は当然に認識もしやすく、対策も取りやすいと言える。その損失額はというと大きくないものが比較的多い。しかし反面頻度の少ない事故こそ致命的な損害になることが多い。回避する方法が難しい問題であるし、預貯金等で備えることが難しいものこそ、地震保険等の加入などによって備えなければならない。

リスクコントロールの実際 (回避・軽減・移転)

リスクマネージメントにおける対策として、最も効果的なのは回避であることは言つまでもない。完全な回避を図ることは簡単なことではない。ならば、事故の頻度を下げるごと、損害の軽減を図る対策を取る必要がある。それでも可能性は0ではないし、経済的なリスクも残つてしまつ。

最終的には経済的な損失をカバーするために保険の利用となるわけだが、その利用方法は最少で最大の効果を得られるようになければならない。

保険会社および保険商品の選択ミスや重複契約は、ムダな保険料負担が生じる事になつ

保険の加入

先に述べたように保険 자체が目的であつてはならない。保険は想定される事故等における経済的な損失を補填するものだ。であれば、義理人情や付き合いで加入するものであつてはならないということは言うまでもない。

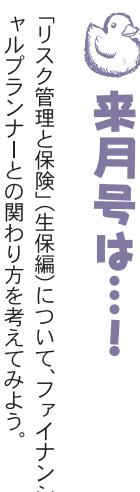
存在する事故の可能性と損失の大きさは、それぞれの職業や年齢、家族構成、保有資産、加入する社会保険制度などにより当然に違つてくる。しかし、どれだけの方が自身の生活環境などの事情を考慮した保険設計になつているだろうか。百人の方には百通りの事情や特殊性があるし、保険設計も百通りの設計が存在するはずだが、実態は…?!

保険は難しいし、面倒くさいと思われている方も多いだろうが、保険料は継続的な支払いが続くだけに、その総額は巨額となる。無駄な保険料を負担されているケースがどれだけ多いことか…。

存在するリスクに見合つた慎重な判断をしていただきたい。保険のための保険にならないためにも、ファイナンシャルプランナーと一緒にリスクをしっかりと考えていただきたい。

費用対効果

リスク管理と保険



「リスク管理と保険」(生保編)について、ファイナンシャルプランナーとの関わり方を考えてみよう。